

前回、農業における計画性について語り合った(有)中西ハウスセンター（兵庫県）の濱友子氏と(株)三豊セゾン（香川県）の谷本幸弘氏。話は、独立することの難しさ、農場スタッフとして働くことの将来への不安、さらに農場が果たすべき役割へと広がっていった。

濱 谷本さんは独立しようと言われたことがあるそうですね。

谷本 ハイ。就農5年目にこの農場を退社して独立にチャレンジしました。でも、あと1週間くらいで就農資金が振り込まれて本格的に独立できるという時期になって、家庭の事情で断念せざるを得なくなってしまうんですよ。

濱 あと一歩だったのに残念ですね。それで農場に戻られたわけですか。

谷本 それが、農業はあくまで独立するために選んだ仕事でしたし、農場を退社した身でもあったので、実家のある神戸に帰ったんですよ。農場に復帰したのは、それから1年ほど経った頃ですね。

濱 農場に戻るきっかけは何だったんですか？

谷本 久しぶりに農場に遊びに行ったときに、社長が専務として戻って

リレー訪問 農場に勤めると夢

第19回

スタッフが活躍 できる場を作る

……の巻



今月のゲスト

はま
濱 友子 (24歳)

出身：京都府木津川市
所属：(有)中西ハウスセンター
雇用形態：社員
備考：1983年生まれ。2003年、京都府立農業大学校卒業後、(有)中西ハウスセンターに入社。現在、入社4年目。出荷調整作業を中心に、栽培から販売まで携わる。

来ないかと誘ってくれたんです。というの、僕が退社した後にも中核的な社員が何人か辞めてしまっていて農場の経営が揺らぐような感じがあったんです。僕も大分迷惑をかって辞めていったので、恩返しというわけではないですけど、もう1度農業を仕事にすることにしました。

濱 独立と違った形で今も農業を続けられているということは、独立する以外の魅力を農業に感じることがあったんじゃないですか？

谷本 そうですね。毎年同じように作業をしても同じものができるわけではなくて、ひとつ進歩するたびに、もうひとつ新しい課題が出て

くる。そうやって年々良くなっていくのを実感できる点にはやりがいを感じています。これだけ長い間続いた仕事って今までないですし、農業は自分に合っているんでしょね。

谷本 独立する意欲がなくなっただけではないんですが、よほどのことがない限り挑戦することはないと思います。今は、この農場の地盤を固めることに専念したいですね。それに僕の場合は、嫁さんと子供もいるので、あまり無茶なことではできないですから(笑)。

濱 でも、就農する時には家族がいらっしゃったんですよね。もう充分、大冒険されていると思いますよ(笑)。

谷本 そうですね(笑)。僕はどちらかという慎重なタイプなんですが、一步目を踏み出したら止まらない性格みたいです。これからはこの農場で活躍してくれる人間を育てながら、独立の希望があればその支援もしていくつもりです。僕の経験からいっても、農場と一緒に出荷できる前提で独立するのが理想的だと思いますから。

濱 やっぱり独立って難しいんですね。谷本さんはどういうところに独立の難しさを感じました？

谷本 農業なら公的なバックアップ

があるので、なんとかなるかと思っていたんですけど、ちょっとした作業道具は自費で調達しないといけないですし、金銭的な部分は思っていた以上に大変でした。独立できたとしても最初の収穫までは時間がかかるので、ある程度融通が利くお金を事前に貯めておかないといけないんだっていうのは痛感しました。農場に勤めてからでは、まずお金は貯まらないですから。

濱 そうですよ。うちの農場でも、就農前に独立資金を貯めている方が仕事の合間を縫って研修に来ていた時期がありました。やっぱり資金面は大変なんですね。土地については

どうでした？

谷本 高齢化しているから土地は集めやすいって聞いていたんですけど、条件の良い土地はなかなか見つからなかったですね。空いている土地は変形地とか飛び地とか条件の悪いところばかりで、条件の良いところはすでに大規模な農場が借りていたりしていました。

濱 条件が良い土地は、みんな手放さないとですね。

谷本 そうなんですよ。僕のようにほかの地域から来た人間が相手だとなおさらでしょう。時間をかけて少しずつ良い土地を集めていくしかないようです。そういえば、近くの



今月のホスト

谷本 幸弘 (34歳)

出身
所属

身：兵庫県神戸市
属：(株)三豊セゾン

考：1973年生まれ。95年、神戸大学経営学部卒業後、カタログ通販大手の(株)千趣会入社。営業・商品企画を担当。2000年、(株)三豊セゾンに入社。04年、同社を退社し、独立を試みるも諸事情により断念。(株)丸山製作所に入社。06年、三豊セゾンに専務取締役として復帰。主に栽培管理全般とスタッフの管理を行なう。

農場に勤めている人が独立の準備をしているんですが、倉庫を見つけたのも大変だって言っていました。いろいろな事情があるんだとは思いますが、明らかに使っていない倉庫でも貸してくれないそうなんです。濱 倉庫ですか……。独立後に安定した売り先を確保できるかということも考えないといけない点ですね。市場だけに頼って相場で動いてしまうのも不安定ですし。

んよね。

谷本 加えて気象条件もありますからね。台風が独立何年目に来るかで影響の大きさも変わりますよ。僕が独立しようとした年には、この地域の田んぼが冠水してしまうくらい大型の台風が来たんです。それを考えると独立を断念して正解だったのかもしれないですね。独立してうまくやっている人がいる以上、無理なことではないんだと思いますが、独立へのハードルはいくつもありますね。ところで、濱さんは独立する気があるんですか？

濱 いえ、今はないですね。独立してやっていくのは無理だろうなっていう思いがすごくあるんです。それに、私の場合は機械に関わる作業とか、できないことも出てきますから。今も機械を使った作業にはタッチしていないんですよ。私に機械を壊わされたくないって思われているようですし（笑）。

谷本 どうしても男女で向き不向きが出る作業ってありますからね。

濱 独立できない理由ばかりを探すのは悔しいんですが、どうしたら独立する方法以外で農業に携わっているかかって考えたときに、それならスタッフとしてただけ今の農場にいられるか挑戦してみようと思って社員になったところもあるんです。

ただ、就農5年目になって任せてもらえるような仕事も増えてきてはいるんですけど、今後の先行きがまるで見えないんですよ。どこを目標に頑張っているのかはつきりしないのが、ちょっとつらいところなんです……。だから今回の対談は、私より長く農場で働いている方が将来をどう考えているのか聞けるいい機会かなと思って来たんですよ。

谷本 そうだったんですか。同じようなことは、うちのスタッフも考えているようで、僕も気になっている事なんです。まあ、僕自身が将来どうするんだって言われると、正直、僕も10年くらい長くやっている人に聞いてみたいところなんですけどね（笑）。

濱 そうですよ（笑）。農場スタッフとして長期間働いている方は、まだそんなに多くないようですよ。手探りで進んで行くしかないのかもしれないですね。

谷本 でも、僕らのように非農家出身だと、少なくともこの農場に勤めるかを自由にするわけじゃないですか。それは利点だとも思いますよ。個人的には、スキルを活かして勤める農場を移っていくような働き方があってもいいなと思っています。といっても、農業にはその土地でしか通用しない技術もあるし、同じ技



術が使える近場の地域だけを転々としていくわけにもいかないので、簡単ではないんでしょうけど。

濱 ほかの農場に移るっていうのは考えたことがなかったんですが、そういう働き方もできたらいいですね。
谷本 経営に携わっている立場としては、スタッフが将来的にも安心して働いていけるような農場にしたいところですけどね。スタッフは休みも少ない中で働いているわけですし、それに見合った待遇を用意してスタッフが発揮できる場も作っていかないと。給料を考えても、企業なら優秀な社員に対して年間500万円くらい出してもおかしくないわけですし。そういったことができる

ように利益が上がるように努力していきたいですね。
濱 具体的にはどういったことが課題になるんですか？
谷本 うちは今まで特別栽培のレタスに頼ってきたんですけど、今後は青ネギの周年供給を実現して経営の柱にしたいと思っています。1人あたりの売上が上がれば、待遇面も改善していけるはずですから。
濱 なるほど。谷本さんは、仕事とはいえ作業から経営のことまで幅広く考えていてスゴイですね。
谷本 「農業だから」という事情を言い訳にしたらそれまでなので、実際に実現できるように取り組んでいきたいと思っています。